



## 安全・安心な医療提供態勢の充実に向けた 高度医療機器の導入整備について

### 1 概況

高岡市民病院では、急性期医療を担う地域の中核病院として、安全・安心な、また良質で高度な医療を継続的に提供するため、第 1 期中期経営計画（平成 21 年度～25 年度）を着実に実施するとともに、病院機能評価の認定更新や 4 月の地域がん診療連携拠点病院の指定更新（内定）など医療態勢の充実に努めております。

また、これらの取組みに合わせて、21 年度から 4 か年計画で、より検査の精度や治療方法など医療サービスの向上を図るため高度医療機器の導入に取り組んでおり、計画初年度の 21 年度は、3 月末までに導入予定の各機器の設置を終え、いよいよ新年度から稼働いたします。

本院では、これらの高度医療機器を活用し、地域の開業医とも連携を図り、高度医療の提供により市民に信頼される病院づくりに努めてまいります。

### 2 導入高度医療機器の概要等

本院は、地域がん診療連携拠点病院であり、特に「女性のがん、放射線治療」を特色としております。このことから、21 年度は、次の高度医療機器を導入・活用することで、患者の身体的負担の軽減、デジタル化による迅速で鮮明な画像確認による精度の高い診断や診察時間の短縮などを図るほか、更にはがん医療をはじめとして疾病の早期発見にも資するものであります。

#### 導入機器（詳細 別記参照）

乳房 X 線撮影装置

デジタルマンモグラフィ装置、乳腺バイオプシー装置（県西部初、県内 2 機目）

デジタルガンマカメラ装置

心臓カテーテル血管撮影装置

頭腹部血管撮影装置

### 3 期待される効果

#### デジタル化

・フィルムを使用しないことから、前回分までの画像データによる比較診断が迅速になり、診察時間の短縮に繋がる。

・モニター精度の向上と相まって、コントラスト調整、画像拡大が可能となり、画像診断の精度が向上する。

・フィルムの搬送、整理、保管等の作業が不要となり、省力化が図られる。

#### 患者の身体的負担の軽減

・ベッド上に受検者が、うつぶせに寝た状態となることで、検査用の針を見ることなく大きな不安を抱かず受診できる。（乳腺バイオプシー装置）

・検査時に受検者が、うつぶせに寝た状態となることで、姿勢保持が容易となる。（乳腺バイオプシー装置）

・2 方向同時撮影が可能であり、検査時間の短縮に繋がる。（心臓カテーテル血管撮影装置）

#### 治療効果等

・がん細胞部位の特定やその栄養血管の塞栓術、抗がん剤の局所注入などが行える。（頭腹部血管撮影装置）

・半減期の短い微量の放射性同位元素を含む医薬品の投与で発生するガンマ線を使用し、鮮明な画像を取得する。（デジタルガンマカメラ装置）

### 4 事業費

約 4 5 0 百万円

別記

導入機器の概要

|   | 導入機器名   | 機能・特徴等  | 稼動時期                        |
|---|---|---|-----------------------------|
| 1 | 乳房 X 線撮影装置<br>(1) デジタルマンモグラフィ装置<br>(平成 7 年度導入機器の更新) | 乳がん検査機器<br>撮影写真のデジタル化により、フィルムへの運搬、整理、保管等の作業が省かれ、前回分までの映像との比較診断を迅速に行うことができる。<br>旧装置に比し、モニター精度の向上と相まって、鮮明でスピーディな画像により、診断が的確になり、患者待ち時間の短縮に繋がる。   | 平成 22 年<br>2 月 16 日<br>稼動   |
|   | (2) 乳腺バイオプシー装置<br>(平成 7 年度導入機器の更新)                  | 乳がん検査機器<br>検査時に受検者が、うつぶせに寝た状態となることで、姿勢保持が容易になる。<br>ベッドの上下動が可能で、ベッド下での作業となり、検査用の針が患者に見えないため、患者の不安感がなくなり、検査時のトラブル（失神など）がなくなる。<br>ベッドが左右に 180° 回転するため、検査時、患者に対し、360° の方向で穿刺が可能となる。<br>腹臥位式バイオプシーの導入は、県西部では初、県内でも 2 機目。 | 平成 22 年<br>2 月 16 日<br>稼動   |
| 2 | デジタルガンマカメラ装置<br>(平成 7 年度導入機器の更新)                    | がん診断装置<br>患者に半減期の短い微量の放射性同位元素を含む医薬品を投与し、発生するガンマ線を画像化できる。<br>スピーディに画像診断が行えることから、診察時間の短縮に繋がる。   | 平成 22 年<br>3 月 25 日<br>稼動予定 |
| 3 | 心臓カテーテル血管撮影装置<br>(平成 7 年度導入機器の更新)                   | 心筋梗塞部位の特定や治療を行う機器<br>2 方向同時撮影が可能となり、検査時間の短縮が図られる。<br>検査時や治療時の安全性や患者の身体的負担が従来機器より軽減される。  | 平成 22 年<br>4 月 1 日<br>稼動予定  |
| 4 | 頭腹部血管撮影装置<br>(平成 7 年度導入機器の更新)                       | 頭部、腹部の血管の検査、治療装置<br>頭部では、動脈瘤部位の特定や脳梗塞の治療を行う。<br>腹部では、がん細胞部位の特定やその栄養血管の塞栓術、抗がん剤の局所注入などを行う。<br>画像が鮮明になり、検査・治療内容の向上に寄与する。  | 平成 22 年<br>4 月 1 日<br>稼動予定  |